

令和6年度 附属高等学校 学校経営計画

1 附属学校の役割

- 学部・大学院における研究を附属学校で実際の指導に取り入れ、その結果を学部・大学の教育研究に反映していく実験・実証校としての役割
- 学部・大学院の教育研究に基づいて、教育実習生を指導する教育実習校としての役割
- 一般公立学校と同様に普通教育を行う公教育の役割
- 地域の学校と連携して教育・研究を推し進める役割

2 東京学芸大学附属学校教育目標

東京学芸大学附属学校は、在学する幼児・児童・生徒に普通教育を施すとともに、大学と連携して実証的研究や実践的研究に取り組むことにより、

- 協働して課題を解決する力
- 多様性を尊重する力
- 自己を振り返り、自己を表現する力
- 新しい社会を創造する力

の四つの力を持った次世代の子どもを育成する教育を推進する。

3 東京学芸大学附属高等学校教育目標

- 清純な気品の高い人間を育てる
- 大樹のように大きく伸びる自主的な人間を育てる
- 世界性の豊かな人間を育てる

4 育てたい生徒像（グラデュエーションポリシー）

多様な分野でイノベーションを引き起こし、国際社会に貢献する人間

現代は先の読みにくい時代である。AIをはじめとした技術の進歩は加速度的であり、現在の職業の多くが近い将来無くなると言われている。そのSociety5.0の時代にあって、社会に貢献する真のリーダーのキーコンピテンシーとは何かを考え上記のグラデュエーションポリシーを決定した。このグラデュエーションポリシーを達成するために、以下の4項目を本校において育成する。

- 改革者としての社会貢献する姿勢
いわゆる**理系、文系を問わず**、各自が選んだそれぞれの分野で創意工夫し改革を進めることにより、**社会に貢献できる真のリーダーを育成**する。
- **生涯学習者**としての学習に向かう姿勢
生涯にわたり学ぶ「姿勢」を持ち、自ら学習する「方法」を身につけるとともに、学習によって獲得した力を他者のために活用する意欲に溢れ、挫折をも糧として成長していくタフな人間を育成する。また、生き生きと楽しく**自律的に学ぶ生徒（エージェンシーに富む生徒）**を育成する。
- 適切な**情報収集・分析能力と課題発見能力**

情報処理に関する基礎的・基本的な知識技能を持つとともに、情報を扱うことに対する適切な倫理観を育成する。さらに、錯綜した複雑な情報の中から重要なものを選び出し自らの目的に沿った情報を発見する力を育成する。そのうえで、**適切な課題を設定し社会を改善していく力**を育成する。

- 柔軟に**ダイバーシティ**を受け入れ活用する力
アジアをはじめとした海外の研究機関・大学・高校と連携して、共同研究及び交流を行うことで、グローバル化に対応した、異なった文化・価値観を持つ人々と協働しその多様性を生かしていく柔軟な知性を育成する。そのための英語力をはじめとした豊かなコミュニケーション能力を育てる。

5 中期経営目標（以下、令和8年度を達成年度とする）

「**多様な分野でイノベーションを引き起こし、国際社会に貢献する人間**」を育成するため、**学校評価等の結果**（保護者生徒アンケートで、海外交流、施設設備、PTAとの連携、が弱いとの指摘）を鑑み、令和8年度を達成年度として以下の**中期経営目標を設定する**。

- **教育のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進める**。帳簿類の整理や書類発行、**教育実習に関するeポートフォリオなどのデジタルデータ管理**を進める。さらには、**生徒一人一台パソコン（以下、1to1）の制度を活用し、教科指導の個別最適な学びを進めるとともに、登校できない生徒への学習支援を充実させる**。一方で、DXにより**教職員の働き方改革**に資する。
- 新型コロナウイルス感染症や、地震等の自然災害、さらには不審者対応をはじめとする生徒の命に係わる事故に対する**危機管理体制**を充実させる。特に**施設設備等に係る危険防止に対して財政面の工夫により十分な整備を行う**。
- 探究活動の工夫など本校独自の教育研究や東京学芸大学のプロジェクト研究と連携した教育研究、さらには東京学芸大学附属中学校や東京学芸大学との連携強化により、**日本における先導的・実験的な調査研究の拠点校**となる。また、**地域教育委員会との連携を図り本校の教育研究の成果を地域に還元**する。
- 「**令和の日本型学校教育**」の目指す方向に沿った、現代的で充実した教育課程を編成し、充実した教科指導を実現することにより、本物教育を深化させ、**真のリーダー育成**を実現する。
- **SSH 指定校として、生徒エージェンシーを育むカリキュラム・マネジメント**を目指す。学校全体のカリキュラムをマネジメントする中で、生徒が主体的に学び積極的に探究活動に取り組むよう授業改善に努める。
- タイ王国プリンセスチュラポーン高校との交流再開をはじめ、**海外交流を積極的に進める**。
- 本校の教育内容とその成果をHP等で**全国に積極的に発信し、全国の高等学校のモデル校**となる。
- 匿名通報システムの活用やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、精神科校医等との連携強化により、「**いじめ**」をはじめとした**問題行動を根絶**する。
- 塾等に頼らず、現役で生徒の志望校合格を実現する**進路指導体制**を構築する。

- **PTA との連携を深め**、学校ホームページや SNS の一斉配信等を活用し、日ごろの**情報交換を充実**させる。
- 校長の**ガバナンスを強化し**、**迅速かつ適切な判断と実行を可能とする学校組織を構築**する。会議の精選と**オンライン会議方式導入**により、**働き方改革**の先鞭をつける。
- **遊休地活用や使途を明確にした寄付の新設等**により、少しでも**財政を強化し**、**上記中期経営目標の実現**を図る。

6 年度経営目標

育てたい生徒像の育成を目指し中期経営目標を達成する過程で、今年度、特に力を注ぐのは、①入学選抜、生徒指導、進路指導、および**施設設備面での危機対応**②中教審答申の「令和の日本型学校教育」と**新たなSSH第3期事業における生徒エージェンシー育成**を意識した**カリキュラム編成**、③**附属中学校、大学と連携**した教科指導や生活指導等の教育研究の活性化、④生徒の**進路希望の実現のための支援強化**、⑤本校の教育を全国の高校や教育委員会等へ**広く頻繁に発信**、すること、⑥**保護者PTA、同窓会等ステークホルダーとの連携強化**、⑦**働き方改革の視点での業務改善**、である。

次の記述で◎は特に重点的に行うことである。()は主担当の分掌・委員会等

(1) 学校運営の目標

「危機対応」、「広報活動の活性化」、「ステークホルダーとの連携強化」「働き方改革の視点での業務改善」のために以下の取り組みを行う。

- ◎ 入試事務、成績処理、調査書や指導要録等の処理システムを導入した。**システムを使用しつつ不適切な点を修正調整**して、信頼できるシステムに作り上げる。(教務部+教育学)
- 部活動の地域以降の状況を把握しつつ、本校としての**部活動の中期的未来像**を構築する。(企画会議+生徒指導部+運営委員会)
- ◎ **新しいホームページを生かし、各種情報を広く迅速に伝える**。校長ブログは月に1回以上更新し、本校の進んでいく方向を明確に示す。各種行事や部活の状況、進学実績等は、即時掲載し、平均して週に2回以上更新する。**生徒の声、保護者の声、学校外からの反応等のアップ**を行う。(広報)
- ◎ **在校生の保護者向け授業公開と中学生とその保護者等への授業公開**をそれぞれ行う。本校での学校説明会、校長が塾等に赴いての学校説明会など年に20回以上行う。(校長+庶務+広報)
- 緊急事態宣言下で対面での会議を自粛した経験を活かす。企画会議や主任会を活用して調整を十分に行うとともに、会議目的の明確化とICTの活用で進行を効率的に行う。その結果として、**対面での職員会議をはじめ諸会議の回数減少と時間短縮**を図る。一方、**オンラインを活用した情報交換(オンデマンド職員会議)**は、**毎週行う**。(企画会議)さらに、**保護者向けにBLEND(校務支援システム)を活用した通知・情報提供**をこまめに行う。

(2) 教育活動の目標

「本物教育の深化と進路支援の充実」と「生活指導と安全教育」のために以下の取り組み

を行う。

- ◎ 従来の**本物教育を強化しキーコンピテンシーを意識した探究活動**等により「課題発見能力」「思考力」「判断力」「表現力」を育成する。特に東京学芸大学からの支援を活用し、専門性の高い探究活動を目指す。(研究部)
 - **Ito1 (一人一台パソコン) の環境を活用し、積極的に生成AIを取り入れることにより**、新学習指導要領と**令和の日本型学校教育**の目指す方向に沿った現代的で充実した教科指導を実現し**本物教育を深化**させたカリキュラムを開発する。(カリキュラム委員会+教務部+研究部)
 - 外部模試を進学指導の中心に据え、徹底的に活用する。他校比較、他学年との比較、同一学年の継時変化等を分析し、有効な教科指導と進路指導を探る。1学年では入学時の学力を客観的に把握し、個に応じた学習指導を行う。2学年では、1学年からの経時変化を明確にして中弛みを防ぐ。3学年では大学入学共通テストに対応した指導を充実させる。入学から卒業まで、**授業を大事にする進路指導**を徹底する。(進路指導部+学年)
 - 教員の進路指導研修を各学期で1回以上行い、**生徒への進路支援力**を強化する。その結果、外部模試の返却時の生徒への指導を充実させる。(進路指導部+学年)
 - ◎ 年2回の**医学部ガイダンス**に続き、同窓会と連携し他の職業に関する**キャリア教育、外国の大学進学のためのガイダンス、教育学部ガイダンス**等も行う。(進路指導部)
 - ◎ **大学個別試験対応の講習**に加えて**1年生、2年生向けの苦手克服の講習**も開設する。さらに、全教科で生徒ごとの**過去問添削指導**を充実させる。(進路指導部+教務部+各教科)
 - ◎ 生徒の自学自習を支援するため、**自習室を設け、支援員を置く**。(進路指導部+管理職)
 - ◎ **いじめの匿名通報システム**、年3回の記名でのアンケート、スクールカウンセラーによるアンケートとカウンセリング、毎週行う**いじめ防止委員会**、管理職とスクールカウンセラー、養護教員とのミーティング等により、いじめを未然に防ぎ、重大化を阻止する。(いじめ防止委員会+生徒指導部+学年)
 - 附属中学校等および**専門機関等との連携**を強化し、メンタルのトラブルや学校不適応に対応する。(支援委員会+生徒指導部+学年+保健部+スクールカウンセラー)
 - ◎ 附属3中学との間で、生徒指導、生徒支援、教育課程等についての担当主任会を、学期に1回以上開催する。(管理職)
 - 警察官や情報産業関係者による講演と教科情報の授業を通じて、**生徒の情報対応力**を強化する。(生徒指導部+学年)
 - 災害等を想定した**避難訓練**を年3回以上行う。(総務部)
 - **不審者対応**を想定した教員対象の実地訓練を地域の警察の協力で行う。(総務部)
 - 図書館においては、生徒の意見を聞き、広報活動を強化することで貸し出し数を1.2倍にする。(図書部)
- (3) 研究活動の目標
- ◎ **大学の教育開発プロジェクト**と連携し、大学の教育研究を支援するとともに、本校の教育研究を活性化する。(管理職+研究部)
 - ◎ **SSH 3期目指定**を活用し、**生徒エージェント**を育む次世代理数カリキュラムを構築し、

探究活動はもちろんのこと、普段の理数教科の授業改善を目指す。また、外部連携を積極的に行いながら生徒の学びを充実させるとともに、本校の取り組みを積極的に発信していく。(研究部+教務部+総務部)

- **理数融合**の授業と**工学的発想**での理科授業を研究する。(理科+数学+研究部)
- **海外の学校等との交流**により、生徒に、コミュニケーション能力とダイバーシティを活用する能力とを育てる。当面は**オンライン**で行うが、適宜、リアルでの交流に移行する。(理科+国際交流委員会+研究部)
- 本校での発表会参加者等に事後調査をして、本校の研究成果の活用状況を分析する。(研究部)
- 東京学芸大学等との連携で、生徒の探究活動への**メンター**を確保し、研究を充実させる。(管理職+研究部)
- ◎ **1to1**のもとでの**ICTを活用した教科指導**の工夫を行うとともに、**生成AIを積極的に活用し、生成された文章が正しいかどうかを判別する能力**の育成研究を行い、広く全国に広める。(研究部+全教科+広報)
- ◎ 地元東京都教育委員会との連携を深め、**学校組織マネジメント、探究活動、1to1、教科情報**等において、高校教員対象の研修講師派遣や、本校での研修会を開催する。(管理職+研究部)

(4) 学生の教育・支援活動の目標

「大学、附属中学との連携」のために、以下の取り組みを行う。

- ◎ 東京学芸大学および他大学の教育実習生約 200 名に充実した教育実習を施す。(教務部+各教科)
- 校長をはじめ本校教員が東京学芸大学に赴き講義を行う。(全教員)
- ◎ 大学に新たに設置された**B類情報コースの学生の教育実習引き受け**について、大学の担当と連携し円滑な実施を目指す。

(5) 社会貢献活動の目標

- ◎ **地域の防災行動計画(タイムライン)**を活用し、防災活動に生徒が参加して、交流することにより、地域の防災能力を強化するとともに**生徒に地域を愛する心を育てる**。(生徒指導部)
- 特別支援学校等との交流によりインクルーシブ教育を実践する。(生徒指導部)
- ◎ 生徒有志が東日本大震災の被害地域を訪ね、自分たちでできるボランティア活動について考える。(研究部+教科)